若草物語（1933）

LITTLE WOMEN

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 アメリカ
色彩 B&W
時間 117分
初公開日 1934/10
公開情報 劇場公開

【解説】

つい最近もウィノナ・ライダーのジョー、サマンサ・マシスのエミーというキャスティングで、ジリアン・アームストロング監督のフェミニンな解釈を加えられ、見事蘇ったオルコットの永遠のベストセラーの、トーキー初の映画化。ジョーに扮した名優ヘプバーンを、大きく売り出すことになったＧ・キューカー監督作だ。父を南北戦争にとられ、母一人に娘四人で家を守るマーチ一家の悲喜こもごもの春秋を、四人四様の成長と共に語っていく。次女ジョーはお転婆で物語作りの名手、長女メグ（Ｆ・ディー）は反対に淑やかな良妻賢母型、三女ベス（Ｇ・パーカー）は音楽を愛し心優しい病弱な娘、四女エミー（Ｊ・ベネット）は気位の高い現実家で絵が上手。隣家の富豪の孫ローリーはジョーに恋するが、彼女はそれを振り切ってＮＹへ。下宿先が同じベア教授（Ｐ・ルーカス）は教養高いドイツ人。彼はそれまでの空想的なゴシック・ロマンから、魅力的な自分の身辺を小説に書くことを彼女に薦めた。そこへベスの危篤の知らせが……。急いで帰郷した彼女は今やエミーと結ばれたローリーと再会。皆に囲まれて喜びながらベスは逝った。ぽっかり胸に穴の開いたジョーには、しかし、それを埋める人がいる。彼女の後を追って、出版されたその小説を手渡しにやって来たベア教授だ……。女優の演技指導では他の追随を許さぬキューカーにはまさにうってつけの題材で、ヘプバーンの自由な個性が輝いている。やはり、最高の出来の映画版といえよう。

【クレジット】

監督	ジョージ・キューカー	George Cukor
原作	ルイザ・メイ・オルコット	Louisa May Alcott
脚本	サラ・Ｙ・メイソン	Sarah Y. Mason
	ヴィクター・ヒアマン	Victor Heerman
撮影	ヘンリー・ジラード	
音楽	マックス・スタイナー	Max Steiner
出演	キャサリン・ヘプバーン	Katharine Hepburn
	ジョーン・ベネット	Joan Bennett
	ポール・ルーカス	Paul Lukas
	エドナ・メイ・オリヴァー	Edna May Oliver
	ジーン・パーカー	Jean Parker
	フランシス・ディー	Frances Dee
	ダグラス・モンゴメリー	Douglass Montgomery
	ヘンリー・スティーヴンソン	Henry Stephenson
	スプリング・バイイントン	Spring Byington

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.